

公益社団法人商連かながわ

## 平成 26 年度商店街実態調査の結果について

慶應義塾大学商学部教授の牛島利明研究室と連携し、専門家から見た神奈川県内の商店街の実態を浮き彫りにした。

テーマは「商店街の新陳代謝」。開店・閉店に関する調査では、一般の物販店の閉店数が開店数を上回る。また、商店街役員の高齢化は顕著で、60 歳以上が過半数を占める結果になった

### ■調査概要

調査対象……	・商連かながわ加盟の全商店街 ・商連かながわ未加盟の一部地域商店街
調査方法……	郵送、または FAX による発送、回収
調査時期……	平成 26 年 8 月
配布数……	787 店街
回答調査票……	302 票
回収率……	38%

### ■調査結果の概要

#### 【商店街の開店・閉店について】

**一般店の物販店は閉店数が開店数を上回る状況。**

過去 3 年間の開店・閉店についての調査結果からは、一般店の中で新規に開店する物販店も相当数あることが確認されたが、閉店する店舗も多く、物販店舗数は純減となっている。個人経営店の経営悪化や事業継承の難しさが伺われる。

#### 【商店街における役員・積極的活動者の商店街活動への取り組み状況】

**役員平均年齢は 50 歳以下の階層が減少、60 歳代以上とする回答が 52.3%に。**

役員平均年齢は、平成 18 年度調査からさらに高齢化が進行していることが伺える。役員平均在任期間もいっそう長期化が進んでいる。また、積極的な役員・会員数が役員数を下回る商店街が多く、役員の一部が活動の大部分を背負っている商店街も多く、商店街活動の新たな担い手をいかに確保するかが引き続き重要な課題であることは明らかである。

#### 【景況感】

**立地環境や地区によって大きな差がある。**

景況感は立地環境や地区によって大きな差があり、地区別でみると、横浜・川崎などの中心市街地では比較的景況感が良く、その他の市では景況感が悪かった。さらに立地環境別でみると、各地に存在する「住宅近隣型」の商店街などの景況感が悪い傾向が顕著であった。

## 【空き店舗】

空き店舗が5店舗以上ある商店街の比率が上昇。

住宅近隣や駅近隣の商店街で、空き店舗の多い商店街が増えている。

空き店舗のある商店街の比率は昨年度と大きな変化はないものの、5店舗以上が空き店舗になっている商店街の比率が上昇していることから、一部の商店街で空き店舗の増加が進んでいることが推測できた。また、昨年度との比較で見ると、「住宅近隣型」と「駅近隣型」で空き店舗が5店舗以上ある商店街の比率の上昇が顕著である。

### 問い合わせ先

(公社) 商連かながわ ふるしょう 古性

横浜市中区尾上町 5-80

神奈川中小企業センター 3階

電話：045-633-5184